URBAN DESIGN SCHOOL MATSUYAMA

VOL.4

2018.5 ~ 2018.12

URBAN DESIGN SCHOOL MATSUYAMA

VOL.4

2018.5 ~ 2018.12

目次

松山アーバンデザインスクールとは …… 1
スケジュール …… 1
プロジェクト実施報告 …… 2
■ お城下まったり星空カフェ …… 2
■ HOT ×ほっと「光の展覧会 in 柳井町」…… 6
■ 大洲和紙を用いた空間演出 …… 12
■『たべまっぷ』の作成 …… 18
■ まつやまアートプロジェクト …… 24
■ 夕焼けベンチ in 宝厳寺 …… 28
松山アーバンデザインスクール 4 期生 …… 34
活動風景 …… 35
アーバンデザインスクール運営委員会より …… 36

松山アーバンデザインスクールとは

松山アーバンデザインスクールとは、将来のまちづくりの担い手を育成及び、まちなかのファンを増やすことを目的とした「まちづくりを実践的に学ぶ市民参加型の学習プログラム」である。

松山アーバンデザインセンターが母体となり、松山市内の 4 大学（愛媛大学・松山大学・聖カタリナ大学・松山東雲女子大学）の教員が運営委員会を組織して活動を遂行しており、まちなかのスクールアドバイザーとして、まちづくりを実践されている方、地域の商店主の方、NPO、まちづくり組織など、各分野で活躍している方からも支援を受けている。

スクール生はプロジェクトチームにわかれ、まち歩きやレクチャー、ワークショップを通じてまちの課題や魅力を発見し、地域住民との意見交換、協働を経て、その中で自ら成長していくと共に、まちの歴史や文化に根ざした松山市ならではの魅力的なまちづくり活動に結実させていく。

1 期目では 25 名が 7 つのプロジェクトを、2 期目では 29 名が 7 つのプロジェクトを、3 期目では 28 名が 6 つのプロジェクトを実践した。4 期目からは、まちづくりのレクチャーを中心とした「基礎編」、チームにわかれプロジェクトに取り組む「実践編」という二段階の構成で進められた。基礎編は 56 名が参加し、実践編は 28 名が 6 つのプロジェクトを実践した。

本成果報告書では、4 期生が取り組んだプロジェクトについて報告する。

スケジュール

お城下まったり星空カフェ　チーム井野森隼太郎

有田 隼（松山大学経営学部３年）　三澤連太郎（松山大学経営学部２年）
河野 芽（松山大学経済学部３年）　森実夏海（愛媛大学社会共創学部１年）
井上花梨（松山大学人文学部２年）

1. 活動テーマ：癒し

ストレス社会を生き抜く現代の人に、ほっと一息つくことのできる癒しの空間を提供することを活動の目的とした。癒しを感じられるものはいくつもあるが、今回は、自然の持つ癒しのパワーに着目した。一度、夜空の下に腰を下ろし、大自然に囲まれ、その静けさや香りを楽しむことで、慌ただしい日常から離れ心を落ち着かせることができるのではないだろうかと考えた。

当日使用したライト

2. 企画の背景

「星空カフェ」の案に至るまで、何度も企画内容を変更した。当初は、学生で運営するカフェをオープンさせることを考えていた。しかし、予算や責任者など、書き上げればきりがないほどの問題が山積みとなったため断念した。そして、空き家が借りられないのなら空き地はどうだろうということで、ポテンシャルはあるが十分に活用されていないスペースを探した結果、城山公園が挙がった。そして、祝祭日を中心に日中は、よくイベントが行われているが、夜間は使用されていないことや、学生や社会人をターゲットとしたことから、星空を楽しめる夜に開催することにした。このようにして、私たちのテーマである自然による癒しと、当初から考案していたカフェを融合させた、「星空カフェ」が生まれた。

3. 企画の概要

今回企画したイベントが「お城下まったり星空カフェ」である。場所は城山公園で、内容は星空観察、コーヒー・軽食の販売、そして芭蕉和紙を使った間接照明の展示とワークショップである。コーヒーと軽食はお店に依頼して出店してもらった。芭蕉和紙とは愛媛大学が開発したもので、本グループメンバーの一人が所属する、芭蕉和紙プロジェクトチームから提供して頂いた。間接照明は私たちで製作し、ワークショップも行った。来場者には夜の公園でコーヒーを味わいながら星空と間接照明に囲まれた空間を楽しんでもらった。

4. 目的

イベントの目的は２つある。まず１つ

目は、癒しを提供することである。私達で松山に足りないものを話し合った結果、松山に住むと自然を感じる機会が少ないという意見が出た。そこで、街中でも城山公園なら星空が見えることに注目し、星空で自然の癒す力を感じてもらえるイベントにした。

２つ目は、夜の城山公園の利用価値を生み出すことである。城山公園は広大な敷地であるにもかかわらず、夜になるとサラリーマンや学生が帰り道として利用しているだけなのが現状である。そこで、夜の城山公園でイベントを行うと、夜でも利用価値があることを人々に示すことができる。この２つの目的を取り入れたイベントによって私たちのテーマである空きスペースの有効活用が実現できる。

THREE FISH COFFEE さんのコーヒー

5.　企画実現の経緯

今回この企画を実現するうえでまず、企画を実行する場所決めから始まった。まずは商店街の現状を知ろう、ということで商店街の空き家・空き地調査、商店街の組合の方にお話を聞く機会をいただき、現状把握を行った。場所は柳井町商店街、萱町商店街、銀天街に訪れた。そこから空き家、空き地はあるが利用するのに高額なお金がかかることから、商店街利用を断念した。そして班員で話し合った結果「癒し」＝「星を見る心のゆとり」ととらえ、松山の街中でも星を眺めて心を休める企画がしたいという結果に至った。

そして星だけでなくあたたかい飲み物と一緒にほっと一息ついていただこうと考えた。そこであたたかい飲み物は香りも良いコーヒーを用いたいと思い、コーヒー屋をお呼びし、コーヒーを飲みながらの企画にし、協力していただくコーヒー屋さんを選出させていただくうえで、以下の考え方のもと依頼を行った。つまり出店していただくうえで、これまでにもマルシェなどに出店した経験のある方にお願いする方が、依頼先の方々の負担も少なくて良いと考えた。そこで私たちは「お城下マルシェ」に出店経験のあるコーヒー屋さんから今回協力していただく店舗の方を選定し、お願いすることとなった。場所は松山市中心地にあり、広大かつ深夜帯に活用されていない「城山公園」を利用することとなった。

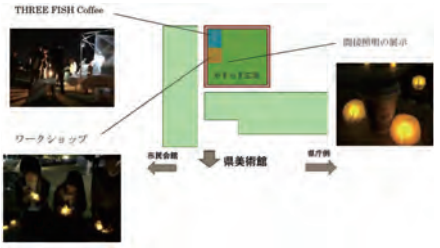
当日使用した看板

利用するにあたって特別料金は必要なかったが、様々な書類が必要であった。企画が固まり次第Ａ４一枚に企画書をまとめ、市役所や保健所、消防署もちろん協力していただくお店の方にもお配りし、再度確認してイベント趣旨を理解していただいた。その結果、深夜帯の城山公園を利用することで公園の新たな利用価値を生み、松山で星を眺めることが出来るような癒し空間を提供することができた。ポスターもアーバンデザインスクールOBの方に製作していただいたが、ポスター依頼をする時点が遅く、1回目は当日配るようになってしまったことは私たちの反省点の一つである。

6. 企画の詳しい内容

今回の企画の内容を大まかにまとめると下記の表のようになる。

日付	平成30年11月3日(土)	平成30年11月30日(金)
時間	20:00～23：00	19：00～22：00
場所	城山公園やすらぎ広場	左同様
参加者数	50人弱	50人強
イベント内容	・コーヒー販売 ・間接照明ワークショップ	・コーヒー販売 ・間接照明ワークショップ ・星座早見盤貸し出し



イベント会場の配置図

7. 成果と今後について

11月3日(土)と30日(金)の二日間で、約100人程度のお客様にご来場をいただいた。開催日を晴れの日に限定して行い、芝生には間接照明を設置したため、当初からのテーマである「癒し」をお客様に提供することを試みることができた。また、普段使われていない夜の城山公園に足を運んで頂くことで、城山公園の活性化にも貢献できた。

反省点としては、準備の大切さを実感した。イベント直前にやる事が多くなってしまったため、段階を踏んで準備しておくべきだった。

今後としては、まだまだ松山市の地域活性化に貢献したいという思いと、市役所、お客様から続けて欲しいとの要望から予算、日程を考慮しながら松山市の空き地などを使って色々な所での『星空カフェ』の開催を考えていきたいと思っている。

広告用チラシ

謝辞

〈最後に〉

今回のイベントを通して、THREE fish coffeeさんを始め、愛媛大学芭蕉和紙チームさん、アーバンデザインセン

ターさん、椿のおもてなしさん、市役所、消防所、保健所のみなさんと、たくさんの方にお世話になった。みなさんのご協力のお陰でこのイベントを成功させることができた。私たちの力不足で迷惑をかけることもあったが、優しくサポートしていただけたおかげでいい活動ができたので感謝している。

Appendix

活動スケジュール

5 月 3 日	テーマ決め
6 月 9 日	テーマに基づいた活動内容決め
6 月 16 日	活動内容決め②
7 月	商店街訪問
8 月 13 日	案練り直し
9 月 2 日	練り直し②
10 月 7 日	場所の申請など
10 月 14 日	夜の城山公園でイベント場所の確認
10 月 20 日	ポスター依頼
10 月 24 日	保健所・消防署へ書類の提出
10 月 30 日	ポスターデザイン確定・出店店舗確定
11 月 2 日	照明作成
11 月 3 日	イベント当日 (1 回目)
11 月 6 日	第 9 回授業で反省と改善策の話し合い
11 月 16 日	イベント当日 (2 回目) →延期
11 月 30 日	イベント当日 (2 回目)
12 月 8 日	最終発表

最終発表資料

メディア掲載

〈新聞掲載情報〉

このイベントは 2018 年 12 月 3 日の愛媛新聞に掲載していただけた。記事によると家族連れの方々にも楽しんでいただけたことが分かり、改めてやってよかったと思った。

薄明かりにほっと一息

城山で「お城下のんびり星空カフェ」

照明つくりなど 家族連れら楽しむ

掲載して頂いた新聞記事
2018 年 12 月 3 日（愛媛新聞）

HOT ×ほっと「光の展覧会 in 柳井町」　街を照らし隊

國政智行（伊予銀行）　久保伶奈（松山大学経営学部２回生）
野本 聖　（松山大学経営学部３回生）　矢野由佳（ 愛媛大学社会共創学部１回生）

１．企画背景

銀天街、大街道の中間あたりに位置している柳井町商店街。銀天街、大街道から少しはずれた場所にあるためひっそりとした雰囲気があり、銀天街や大街道と比較すると、日中の人通りは少ない。しかしながら、その商店街の独特な雰囲気を活かした個性的なお店が多いこと、銀天街と大街道にアクセスしやすい場所に位置することなど、多くの魅力をもつ場所である。そんな隠れた柳井町商店街の魅力をもっと多くの人に知ってもらい、銀天街、大街道に続く松山第三のメイン商店街となるようなきっかけを作りたいと考え、本活動の企画を立ち上げ、実施することにした。

Google マップより作成

２．企画の目的

最近では若者や通な人たちから注目を集めている柳井町商店街。そのように注目を集める一方で、もったいない一面があることに私たちは注目をした。

街歩きをしていて、私たちは、想像よりもはるかに柳井町商店街を利用する人が多いことに気付いた。しかし、その多くの人は、目的を持って柳井町商店街を利用しているというよりは、ただの通勤・通学路として利用しているように感じた。ただ、見方を変えてみれば、この人たちは商店街内にあるお店は利用しないものの、中央商店街とは別の雰囲気を持つこの商店街の存在は知っていて、これから利用する可能性が大いにある人たちである、と考えることもできる。中には、通勤・通学でしか利用しないため、お店が開店していない時間の柳井町しか知らない人がいるかもしれないし、空き地や住宅も立ち並んでおり一つ一つのお店は決して大きくないため、お店の個性あふれる魅力がうまく見つけられていない人もいるかもしれない、と考えられる。

そのような人たちに向けて商店街の魅力を発信するためにも、私たちは「非日常性」をテーマにし、今後自発的に商店街に訪れてもらえるようなきっかけづくりを目的としたイベントを行うことにした。

３.企画の概要「光の展覧会 in 柳井町」

中央商店街から少し外れた場所に位置するレトロな街並み。空を見上げればカラフルな風車が元気に回り、お昼の時間

帯にはいつもジャズが流れていて、とても雰囲気がある。おしゃれなカフェや古本屋があるかと思えば、貫録があふれ出ている金物屋さんや電気屋さん、南の入り口にはあまり人が利用していなさそうな公園がポツリとたたずんでいる。そんな個性が入り混じり、にじみ出ているのが、柳井町商店街である。

実はBGMで流れる曲は、毎日朝は小鳥のさえずりから始まり、歌謡曲やジャズ、J-POPなど時間によって変えているらしい。

通勤・通学でしか利用しない人は、その時間に流れている音楽を毎日聞いていることになる。私たちは、まずこのいつも同じ時間に流れている音楽に注目をした。そして、通勤・通学でしか利用しない人は、昼間営業しているお店の魅力を知らないことにも注目をした。そこで、通勤・通学時の商店街には薄暗く隠れてしまっていた魅力を感じてもらい、「こんなお店があったんだ、お昼にまたゆっくり来てみたいな」と思ってもらえるような非日常的空間を演出する、という着想を得るに至ったのである。

柳井町商店街昼間の様子

このような経緯をもとに、私たちは、“光×音楽による非日常な商店街”の演出による「光の展覧会in柳井町」を実施することにした。

柳井町商店街の柔らかで温かいイメージに合わせ、手作りの灯籠を用いた光と、普段とは一味違うジャズを時間帯ごとに変えて流す音楽で、非日常的空間を演出。また、もっとわかりやすく柳井町について知ってもらいたいと思い、店舗の情報や、私たちの見つけた「柳井町商店街の良いところフォト」をもとに編集したPR動画を制作し、空き地を利用してプロジェクターで投影することにした。

4.「光の展覧会in柳井町」を開催するまで

① 柳井町商店街理事長 渡部勝平氏と面会

柳井町商店街理事長の渡部さんと面会し、私たちは、商店街の良さやPRしていきたいこと、商店街を歩いて感じた通行人が街を十分に利用できていないこと、夜が薄暗いこと、公園が利用しずらいように感じたこと、などを話した。渡部さんは、柳井町商店街は、これまでもUDSMで「路地裏映画館」など学生主催のイベントを数多く受け入れてきたこと、毎年夜市の時期に「カモン夜市」という銀天街や大街道とは異なる“ちょっと大人な雰囲気を味わえる素敵な店舗”が出店するイベントなどを通じて商店街をPRしていること、などを教えてくださった。私たちの企画も応援していただき、一緒に商店街を歩きながら、商店街の良さや店舗の紹介をしてくださった。

② プレイベント実施

実際にどのようにしたら効果が上がるのかを確認するために、プレイベントを12月1日17:00から18:30まで柳井町商店街で実施した。LEDライトを用いて実際に設置した時の灯籠の明るさや、設置する場所を確認しているときに、通

行人の方から「何をしているの？」と興味を持ってもらい、「本番のイベントも楽しみにしていますね。」などと声をかけていただくことができた。私たちが課題としてとらえた、「通勤・通学で柳井町商店街を利用している人が、商店街へ興味をもつきっかけづくり」ができるということを、プレイベントで実感した。また、灯篭を設置する場所を確認できたため、本番で使用する灯篭の数を明確にすることができた。

プレイベントの様子

このプレイベントの実施を通じて、本番に向けての改善点を２つ見つけることができた。１つ目に、プロジェクターで投影する動画内容である。実際に街の人の声を聴くことで、商店街内に灯籠を設置するだけでは何のイベントを開催しているのかわからないことが判明した。そのため、動画で柳井町商店街の良さをアピールするだけでなく、イベント自体の内容についても投影することにした。２つ目は、灯籠やその他機材の運搬方法である。実際に灯籠を運ぶときに、１人で灯籠の土台や LED ライトを持っていくことは難しいことがわかった。

③ 書類作成

道路に灯籠を設置するため、松山東警察署に「道路占用許可申請書」を、松山市役所に「企画書」と「交通安全対策」を提出した。

また、チラシを UDSM の TA スタッフである志田尚人氏に制作していただいた。実際に商店街の方に企画の説明をした上で店内に貼らせていただいたり、商店街内の掲示板に掲出していただいたりしながら、通行人の方への宣伝を行った。

チラシ

5.『HOT ×ほっと ～光の展覧会 in 柳井町～』の開催

12 月 20 日から 3 日間、18:00 から 21:00 までの時間帯でイベントを開催した。

① 光の演出

1m のガラスの灯籠を UDCM からお借りし、商店街の入り口にあるベンチに設置した。

１ｍサイズのガラスの灯籠

柳井町商店街に設置しているベンチの近くに、今回のイベントのシンボルのような気持ちで設置した。実際にベンチに座りながら話をしてもらえたり、写真を撮ってもらうことに繋がった。

また、LED ライトで光る灯籠を製作し、商店街内の一定箇所に、間隔をあけて計 38 個の灯篭を設置した。この LED ライトで光る灯篭は、縦 60 ㎝×横 20 ㎝の和紙を使用し、それを高さ 10 ㎝の土台に装着したもので、柳井町商店街のシンボルである風車を連想させるようなデザインを目指した。この和紙の活用は、柳井町商店街のあたたかみのある雰囲気とマッチするようにするためである。和紙に 1 枚ずつ絵の具で染める加工を施したことで、1 つ 1 つ味が違った灯篭となり、じっくりみても楽しめるものを製作することができた。灯籠の中に入れた LED ライトは UDCM からお借りしたもので、“ぽわっとした光が燈る”ことによって、明る過ぎず効果的な光の演出を実現させることになった。

道路に設置した和紙の灯籠

また、プロジェクターを設置する空き地には、15 ㎝ほどの紙コップで作った灯篭も設置した。また、夜の閉店時にシャッターを下ろさない店舗の方に、営業後店内に灯籠を設置していただくようにお願いし、お店の雰囲気が外から楽しめるようにした。

店内に設置した灯籠の様子（rodan-caffe）

② 音楽の演出

非日常感をより演出するために、商店街のスピーカーからいつも流れている音楽とは違う雰囲気でありながら、柳井町商店街の夜の雰囲気にぴったりだと思ったジャズを流すことにした。時間帯によって少しずつ音楽の雰囲気を変え、通行人の方が楽しめるように工夫した。しかし、スピーカーの操作が難しく、最終日はプロジェクターを投影する商店街内の空き地で、CD ラジカセを用いて流すことにした。

空き地の様子

③ プロジェクターによる空間演出

柳井町商店街のほぼ中心にある通行人の目につきやすい空き地の壁に注目し、店舗の情報や、私たちの見つけた「柳井

町商店街の良いところフォト」をもとに編集したPR動画を、プロジェクターで投影した。

スライドショーで投影した写真

人通りが多い昼間の商店街の写真、風車と青空の写真、多くのやかんが連なる金物屋さんの写真、商店街にあるかわいいタイルの写真、思わず座りたくなるようなあたたかみのある木のベンチの写真など、ほっこりする写真を中心に動画としてまとめた。また、写真をレトロな雰囲気にするために、フィルムカメラのような加工にした。通行人の目に入るのは一瞬であることから、どの場面を見ても「なんかいいな」とすぐに思ってもらえるようにするため、写真には簡単な説明文を挿れ、わかりやすくなるように工夫した。また、プロジェクターの映像を観て、今どのようなイベントを行っているのかを知ってもらうために、チラシ自体も動画の中に取り入れて、投影することにした。

プロジェクターの効果は高く、結果として、たくさんの方に足を止めて動画を観ていただくことになった。さらに効果を上げるために、2日目からはプロジェクターを2台用いて、どちらの方向から通行人が来ても観られるように工夫をした。

最終日には、商店街の方もイベントや灯籠、動画を観に来てくださり、みかんを差し入れてくださったり、「ありがとう」などの声をかけていただくこととなった。

プロジェクターを観て立ち止まる通行人の方々

6．成果と今後の展開

光の展覧会は通勤・通学時の通行人がターゲットであったため、具体的な数値としてのデータは取っていないが、柳井町商店街の方々から、お褒めの言葉や感謝の言葉をいただいたり、通行人の方から、興味を示して話しかけていただいたりした。また、プロジェクターで流している映像を、自身のカメラにおさめている方もいた。イベント開催中に、もう少し明るさがほしい、灯篭の数を増やしてほしい、というご意見や改善案もいただくこととなり、私たちのイベントが柳井町商店街のみなさまから好意的に受け止めていただいたことを実感した。

今後は、柳井町商店街が年に1回開催している「カモン夜市」というイベントとのマッチアップや、夜間店内に設置する灯篭のみを継続していったらどうか、といった意見が出ているが、どちらも現段階では検討中である。引き続き検討を重ね、柳井町商店街での活動を継続させていきたい。

イベント終了後の様子

ご協力いただいた方々

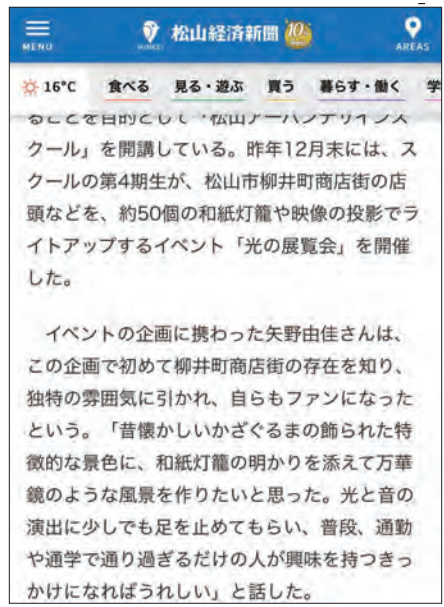
渡部勝平さま（柳井町商店街理事長）／相原泰典さま（CM 食堂 有限会社）／柳井町商店街のみなさま／愛媛大学山口ゼミのみなさま／三木亜弓さま（あんじゅ・ここん）／武智昭文さま（松山市 都市整備部 都市・交通計画課）／松山東警察署／尾崎信先生（UDCM ディレクター）／四戸秀和先生（UDCM ディレクター）／志田尚人さま（UDSM TA スタッフ）／ UDCM スタッフのみなさま

Appendix

活動スケジュール

5 月 25 日	「街を照らし隊」チーム結成 個人で各商店街（中央商店街等）をフィールドワーク
6 月 22 日	フィールドワークのまとめ
6 月 26 日～7 月 6 日	チームの活動方向性の決定
7 月 10 日	柳井町についてヒアリング調査の実施
7 月 13 日～9 月 5 日	チームの活動方向性の再検討
10 月 20 日	チームの活動方向性の再決定
10 月 24 日	イベント企画の仮決定
11 月 6 日	柳井町商店街理事長の渡部勝平氏と面会し意見交換
11 月 16 日	灯篭のデザイン決定
11 月 17 日～23 日	イベント企画の確定
11 月 24 日	柳井町商店街理事長の渡部勝平氏への企画説明および協力依頼
11 月 25 日	道路占有許可申請に必要な書類等の作成、松山市役所の方との協議
12 月 1 日	プレイベントの実施
12 月 11 日	チラシ完成
12 月 20 日～22 日	イベント本番の実施

メディア掲載



MENU　松山経済新聞　AREAS

16℃　食べる　見る・遊ぶ　買う　暮らす・働く　学

ることを目的として「松山アーバンデザインス
クール」を開講している。昨年12月末には、ス
クールの第4期生が、松山市柳井町商店街の店
頭などを、約50個の和紙灯籠や映像の投影でラ
イトアップするイベント「光の展覧会」を開催
した。

イベントの企画に携わった矢野由佳さんは、
この企画で初めて柳井町商店街の存在を知り、
独特の雰囲気に引かれ、自らもファンになった
という。「昔懐かしいかざぐるまの飾られた特
徴的な景色に、和紙灯籠の明かりを添えて万華
鏡のような風景を作りたいと思った。光と音の
演出に少しでも足を止めてもらい、普段、通勤
や通学で通り過ぎるだけの人が興味を持つきっ
かけになればうれしい」と話した。

「松山のまちづくり拠点・もぶるテラス前に『こたつ』登場　施設リニューアルを PR」
2019.01.25（松山経済新聞）

記事内で、本イベントが紹介されました。

大洲和紙を用いた空間演出　Washi Sky Project

宇山舞夢（愛媛大学社会共創学部１回生）　高田凌雅（松山大学経済学部３回生）
垣内みなみ（松山大学法学部１回生）　牧野未妃（松山大学経営学１回生）

１．企画の背景

愛媛県には、砥部焼、今治タオル、木蝋、伊予絣をはじめ、地元ならではの伝統工芸品が数多くある。伝統工芸品は、職人さんが一つ一つ手作業で作っているため、機械による大量生産品にはない温かみを感じることができる。

しかし、今は昔と比べて、私たちの日常生活の中で伝統工芸品を用いる機会は限られており、伝統工芸品を身近なものとして捉え難くなっている。愛媛県の伝統工芸品についても、地元の人でさえ知らない人が少なくない。こうした中、職人さんの後継者不足も相俟って、伝統工芸品を将来にわたって維持していくことが難しくなっている。

この様な問題意識の下、私たちは、地域独自の伝統工芸品を用いたまちづくり活動を通じて、伝統工芸品の魅力を若い世代をはじめ地元の人に改めて知ってもらいたいという想いで活動を開始した。

２．大洲和紙に着目した理由

まず、愛媛県の伝統工芸品について理解を深めるため、市内で民芸品を取り扱っている「民芸かりん」を訪問し、オーナーの矢野氏から愛媛県の伝統工芸品の種類や特徴について教えて頂いた。たくさんの魅力的な伝統工芸品があったが、その中に和紙で作られている靴下があり、和紙にはいろいろな可能性があると思った。そこで、国に指定されている伝統工芸品の一つである、大洲和紙に着目した。大洲和紙には以下のような魅力的な特徴がたくさんある。

・大洲和紙は今から約千年前の平安時代にはすでに作られていたと言われている。
・職人全員が女性のため、優しい色合いの和紙が多い。
・体力が必要な仕事だが、機械に頼らず、職人さんの努力により、いまもなお伝統的な技法である「流し漉き」が受け継がれている。
・かな用半紙の質は日本一と称されており、書道家から高い評価を得ている。

このような独自の魅力をもつ大洲和紙を用いてまちづくりを展開できないかと考えた。

3．企画の立案

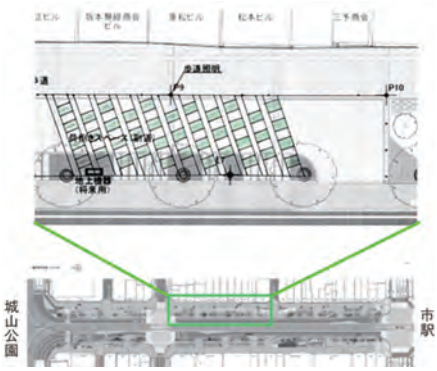
大洲和紙を用いて具体的にどのような活動を実施するかについてグループ内で話し合いを重ねる中で、まちなかの街路に「和紙の屋根」を演出するという案が浮上した。そこで、この案を具体化するにあたって、内子町にある天神産紙工場を訪問した。そこで、若手の職人さんである渡邉氏より、大洲和紙の製作工程や特徴などについてお話を伺った。また、紙漉き体験もさせていただいた。

この工場で作られている様々な和紙を

吟味し、街路空間に展示した時に光が透けつつ、破れにくい種類として「色和紙」を使用することに決めた。この和紙を用いてどのように屋根を演出するかについて試作を重ねた。その結果、沿道側の街路樹間と店舗側の電灯間をロープで結び、両ロープ間にテグスを約 50cm 間隔で通し、そこにビニールチューブで固定した 66cm × 66cm の和紙を通すという方法を採用することとした。

また、和紙の屋根の下で、親子を対象にして大洲和紙を用いた小物の手作りワークショップを実施することとした。具体的には、和紙を用いたペン立てと下敷きを作ることになった。

本企画の開催場所について、通行人が多く、一定のスペースを確保できる場所として、2017 年 9 月にリニューアルした花園町通りを候補とした。そこで、花園町商店街組合長の重松氏に私たちの企画内容について説明したところ、ご協力していただけることになった。その後、重松氏や商店街の方々との協議を重ねて、和紙の屋根の設置場所や設置方法について詳細を詰めた。



見取り図

本イベントの開催日は、11 月 24 日（第 1 回イベント）と 12 月 2 日（第 2 回イベント）に決定した。第 1 回イベントでは屋根の演出のみ実施し、第 2 回のイベント時に屋根の演出に加えてワークショップを実施することとした。また、12 月 2 日については、元々「お城下マルシェ花園」イベントの開催日であったことから、お城下マルシェ実行委員会の方々と相談し、本イベントとの合同開催の形でとり行うことを了承いただいた。

本企画の開催に向けてインスタグラムを開設し、市民の方への情報発信を図った。また、第 1 回イベント時には、第 2 回イベントの告知チラシを通行人の方々に配布し、ワークショップへの参加を呼びかけた。

チラシ

4．第 1 回イベント（11 月 24 日）

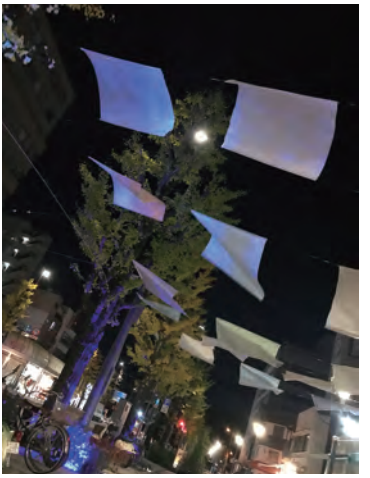
当日は、朝 5 時半に花園町通りに集合し、和紙の屋根の設置を開始した。当初、朝の 9 時までに屋根を完成させる予定だったが、人手不足や脚立などの備品不足のため、屋根が完成した時間が 13 時と大幅に遅れることとなった。また、最

初に計画していた和紙の枚数の半分ほどしか設置することが出来なかった。

この様に準備に時間を要したものの、和紙の屋根を設置すると、多くの通行人が立ち止まって興味を示してくれた。通行人からは「きれいだね」という声も頂いた。特に、当日は土曜日ということもあり、人通りが多く、花園通りがこのイベントに適していることを改めて確認できた。日中は特に子供連れの家族が多かったので、次回のワークショップの宣伝にもなった。また、立ち止まってくれた方に声をかけ、アンケートに答えてもらい、特典として手作りの和紙のコースターをプレゼントした。

昼の様子

夕方より、愛媛大学工学部機械工学科の研究室からお借りした水素ライトを用いてライトアップを行った。日中とは違った幻想的な雰囲気を演出することができた。花園町通りは飲食店が多いため、夜はサラリーマンなど、日中とは違う世代の方にも見てもらうことができ、一日を通してイベントを行うことのメリットを感じた。



夜の様子

和紙のコースター

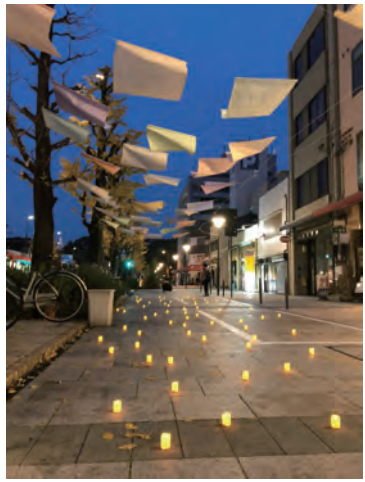
この様に、第１回イベントを通じて、大洲和紙を用いた空間演出を行うことが出来た一方で、和紙の屋根を展示することに注力してしまい、「大洲和紙」の魅力を伝える工夫が足りなかった。また、前述の通り、屋根の設置準備に時間がかかりすぎた。第２回イベントにあたっては、これらの点を改善していくことが課題となった。

5．第２回イベント（12 月 2 日）

当日は、朝 5 時に集合し、屋根の設置準備を開始した。前回の反省を踏まえて、人員を増やすと共に、脚立も 4 台用意し、細かい部分まで手順を決めた。この日はお城下マルシェと合同開催ということもあり、マルシェの開始時間までに屋根の設置を終える必要があったが、たくさんの方々に協力していただき、無事設置することができた。ただし、和紙に通しているテグスとロープが一部絡まってしまい、時間までにほどくことができず、予定より狭い範囲での展示になった。この点は今後の課題である。

和紙の展示に加えて、子供たちとその保護者を対象にしたワークショップも行った。晴天に恵まれ、お城下マルシェとの合同開催等の好条件が重なり、多くの人でにぎわった。ワークショップでは、全 16 名に参加してもらい、大洲和紙の説明や三択クイズをすることにより、子供達やその保護者の方に大洲和紙について知っていただくことができた。また、ワークショップの参加者にココアをふるまい、ゆっくりと楽しみながら自分だけの和紙小物を作ってもらった。お城下マルシェが終わってからも、自分たちがここからの景色がとてもきれいだと思う場所に写真スポットを設けた。さらに、屋根の下に電球のキャンドルを 50 個ほど設置したことにより、立ち止まって写真を撮っている人が前回よりも増えた。ただし、夕方から雨が降り出したため、ライトアップは 17 時から 30 分だけの時間帯に留まった。一回目同様、ワークショップに参加していただいた方に子供用、大人用のアンケートにそれぞれ答えてもらい、コースターをプレゼントした。

昼の様子


夜の様子

ワークショップの様子

ペン立て

企画の概要

企画名	Washi Sky Project ～空いっぱいの和紙～
実施日時	2018 年 11 月 24 日 (土) 9：00 ～ 22：00 12 月 2 日 (日) 9：00 ～ 17：30 (ワークショップ　9 ：00 ～ 14：00)
実施場所	花園東通り商店街
企画内容	花園東通り商店街に大洲和紙の屋根を展示し、空間演出を行う。 12 月 2 日には、大洲和紙を使った親子対象のワークショップを実施。
ワークショップ参加者	16 人
ワークショップ収支	収入　2,458 円
	支出　3,300 円

6．結果・成果

通行人へのアンケートより、「伝統工芸は遠いものと思っていたが、身近に感じた」、「伝統工芸品が街に溶け込んでいて新鮮に思った」、「地元にも紙文化があることが分かった」などの声があった。また、商店街の方からのコメントとして、「花園通りが華やかになった」、「ワークショップは孫たちが喜んでいた」、「継続的にやってほしい」という声をいただいた。この様に、和紙を空に掲げて屋根を演出するという新しい方法により、伝統工芸品をより身近なものに感じてもらう一つのきっかけになったと考える。また、ワークショップの際に大洲和紙の説明とクイズを行ったことで、直接的にも大洲和紙の魅力を伝えることが出来た。さらに、通行人へのアンケートより、84％の人が今回の企画を通じて「大洲和紙以外の伝統工芸品を知りたいと思った」という項目について「思う」「やや思う」と回答してくださった。この結果より、今回の取り組みが地元の人に地元の伝統工芸品を知ってもらうための一つのきっかけになり得ることが示唆される。

7．今後の展開

今回の取り組みの課題として、和紙の屋根の設置方法や空間演出のデザイン性には改善の余地が少なくない。ただし、第 2 回イベントでは初回の反省点を活かし、和紙の屋根をスムーズに設置するための工夫を図ったため、作業時間が格段に少なくなったことには一定の手ごたえを感じた。今後、今回のようなイベントを実施する場合、そうした改善を繰り返していくことにより徐々に完成度を高めていきたい。

今後の活動として、今回のワークショップ中に市内の児童館の館長さんから、児童館でもワークショップを行ってほしいとお声掛けしてくださったので、和紙の小物作りのワークショップを継続していきたいと考えている。また、和紙の屋根についても、専門的な方のアドバイスをもらいながら、空間演出の質を高めていくことが重要な課題である。同時に、大洲和紙だけでなく、様々な伝統工芸品について更なる理解を深めながら、グループ結成当初からのメンバーの想いであった「伝統工芸品を用いたまちづく

り」やそれを通じた「伝統工芸品の普及」について追及していきたいと考えている。

ご協力いただいた方々

矢野美由紀さま / 渡邉真弓さま , ならびに天神産紙工場さま / 重松建宏さま (花園商店街組合長)/ 新居田真美さま (お城下マルシェ実行委員会)/ 松原知光さま (お城下マルシェ実行委員会)/ 森岡洋平さま (お城下マルシェ実行委員会)/ 武智昭文さま (松山市役所)/ 花園町商店街の皆様 / 愛媛大学工学部さま / UDCM のみなさま

Appendix

活動スケジュール

5 月 31 日	グループ結成
6 月 23 日	民芸かりん訪問
9 月 13 日	天神産紙工場訪問①　紙漉きを体験
9 月 18 日	花園町商店街組合長の重松さんと面談
10 月 6 日	天神産紙工場訪問②
10 月 18 日	ワークショップ試作
10 月 24 日	お城下マルシェ実行委員会の方々と面談
11 月 3 日	天神産紙工場訪問③
11 月 10 日	みんなのひろばにてプレテスト
11 月 22 日	花園町東通り商店街の各店舗に企画内容や道路規制の説明をしに行く
11 月 24 日	イベント一回目
12 月 2 日	イベント二回目 (お城下マルシェと合同開催)

メディア掲載

愛媛新聞（紙面・ONLINE）／あいテレビ／松山市役所 HP

愛媛新聞 ONLINE

『たべまっぷ』の作成　エキカツ！

泉 夏実（松山大学３回生）　藤原優奈（松山大学３回生）
加藤志歩（愛媛大学２回生）　万戸優希奈（愛媛大学２回生）
佐藤萌衣（愛媛大学１回生）　山本紗乃（松山大学３回生）

１．チーム結成と活動の背景

私たちのチームは「賑わいを創出したい」という思いをもった女子大生６人でグループを作った。初めてグループを作った時は、それぞれがやってみたいことなど、意見をたくさん出し合った。その中で、これから活動していく上での具体的な対象地について議論した。銀天街や大街道は普段から人が集まり、松山市の中心市街地らしい賑わいを見せている。それに比べてJR松山駅（以下、松山駅）は、市の玄関であるのにも関わらず賑わいがなく寂しい印象があるということや、松山駅周辺のお店を知らないために大街道など街なかの方に行ってしまうという意見が出た。また、メンバーの中で松山駅を通学に利用していた際に、電車の待ち時間に立ち寄る場所がなく退屈な思いをしたことなどがあったことから、私たちは「松山駅に何か良い影響を与えたい！」ということで活動対象地を松山駅周辺に決定した。

2. 対象地域の現状把握と企画の目的

対象地域である松山駅周辺の現状を把握するために、市役所の方、大手町にあるホテルの代表の方、松山駅の運営をされている四国旅客鉄道株式会社　愛媛企画部の方からお話を伺った。そこで、松山駅近くのホテルに置いてある駅周辺の店舗紹介マップのデータが古く、店の名前のみであることや、松山駅の構内には周辺店舗を紹介する情報ツールがないこと、駅を訪れる人が減っており周辺のお店も減ってきていること、松山駅が2026年に再開発予定であることなどが分かった。

また、松山駅周辺地域を対象とした土地利用勉強会にも参加した。これは、魅力的な松山駅周辺地区を目指し地元主体のまちづくりを推進していくために松山市役所の方や、アルパック、周辺地域の地権者など、多くの方が参加しているセミナーである。これから始まる松山駅の再開発に向けて、参加者全員で将来の松山駅周辺の景観イメージを考えたり、松山駅の現状について意見交換を行なった。その意見交換では、松山駅は昼も夜も人通りが少なく寂しいという意見や、行ってみたい魅力ある店や施設がない、そもそも行きたい店がないという意見が出た。こうした松山駅の現状を踏まえ、私たちは松山駅周辺のお店の魅力が伝わるマップを作成することにした。そうすることで、松山駅周辺についてより多くの人に知ってもらい、足を運んでもらうきっかけになると考えた。具体的な活動目的は以下の通りである。

・駅利用者に電車やバスの待ち時間に読んでもらう

・地域の人や観光客に駅周辺のお店を知ってもらう
・駅周辺に訪れてもらうきっかけをつくる
・駅周辺のホテルに新しいマップを置いてもらう
・松山駅の価値を上げて、再開発に良い影響を与える
このような目的で、私たちはこの企画をスタートした。

3. 企画実践の方法

マップを作成するにあたり私たちは大きく二つのことに取り組んだ。

①まち歩きと駅利用者へのアンケート調査の実施

松山駅周辺に、どのようなお店があるのかを調査するためにまち歩きを実施した。その結果、松山駅周辺には約 80 店舗のお店があることが分かった。紹介するお店の範囲とどのようなお店を紹介するかを決めるために松山駅の利用者を対象に昼間と夕方で計 50 人にアンケート調査を行った。

アンケート項目は以下の通りである。

1. 松山駅利用の目的
2. 松山駅の利用頻度
3. 待ち時間に何をしているか
4. 歩いてどれくらいの距離のお店なら行きたいと思うか
5. どんな情報があれば待ち時間に外に出たいと思うか

この中で私たちは「歩いてどれくらいの距離のお店なら行きたいと思うか」と「どんな情報があれば待ち時間に外に出たいと思うか」の結果に着目した。

アンケートの結果から、駅から徒歩 10 分以内の店舗であれば行きたいという意見が多く（図１）、カフェやパン屋などの飲食店の情報が欲しいという意見が多くみられた（図２）。

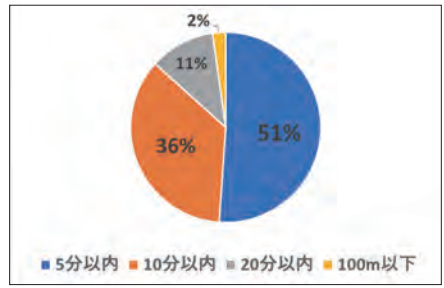


図１.「歩いてどれくらいの距離のお店なら行きたいと思うか」の結果

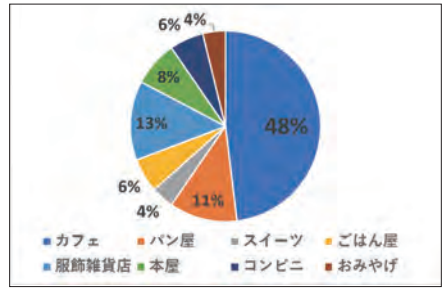


図２.「どんな情報があれば待ち時間に外に出たいと思うか」の結果

②お店の選択とターゲットの設定

アンケートの結果から松山駅から徒歩 10 分以内の飲食店を中心に再度まち歩きを行い調査したところ、約 60 店舗あることが分かり、そのなかからお店を絞るためにマップのターゲットを決定することにした。松山駅周辺の飲食店はおおまかに純喫茶、おしゃれな飲食店、チェーン店の 3 つに分類した。その中で私たちは、お洒落な飲食店を紹介することで、これまで街なかに行っていた人たちが松山駅周辺にも来てもらうきっかけになればと考え、お洒落な店舗を好む若者をマップのターゲットに決定した。そして、約 60 店舗の中からお洒落な飲食店を 16 店舗ピックアップした。

③マップの掲載内容と工夫

掲載店舗決定後に、マップのタイトルを『たべまっぷ』という名前に決めた。このタイトルは、食べ物のマップであるということが一目でわかるようにしたいということで決定した。また、私たちのグループは女子大生６人組ということもあり「今の私たちだからこそ作成できたマップ」ということを伝えたかったので、サブタイトルに『女子大生がおすすめするお店 16 選』というキーワードを加えた（図３）。

その後、マップを作成する上で各個人がこだわりたいことについて話し合いを重ねた。先生方や TA の方にアドバイスをいただき、特にこだわるべき４点が決定した。１つ目が、使い捨てではなく、ずっと持っていてもらえるようにしたいということである。空いた時間に読むために文庫本を鞄に入れている人は多いだろう。そのような存在に『たべまっぷ』にもなってほしいと考えた。２つ目は、駅からの所要時間をいれるということである。マップを作成する上で他の様々なマップにも目を通したが、目的地への距離感がつかみにくいものが多かった。そこで一目で所要時間がわかりやすいような地図を用意したいと考えた（図４）。３つ目は、お店の方との対談を入れたいということだ。普段知ることのできないお店の誕生秘話や、店員さんの人柄に迫りたいと考えた。実際にまち歩きをして周辺店舗の方とお話をさせていただいた際に、どの方も温かく私たちを迎えて下さり、それがこの松山駅周辺の魅力であると思い、もっと多くの人に知ってもらいたいと感じた。対談を入れることで、ただのマップではなく、読み物として読んでもらうこと、そして店舗をより身近に感じてもらい、入りやすい印象を与えることを狙いとした（図５、図６）。

図３．たべまっぷの表紙

図４．完成した松山駅周辺地図

図５．対談時の様子

図６．完成した店舗の記事（対談コーナー）

図７．完成した店舗の記事（各店舗の紹介）

４つ目は、本マップのメインである対談コーナーの店舗紹介の写真は、カメラマンに依頼するということである。視覚的にもお店の魅力が伝わるのではないかと考えた。対談コーナーの店舗の写真を撮っていただいたカメラマンは、愛媛大学の鈴木裕之さん、松田萌さん、松山大学の藤田玲奈さんである。インタビュー中の様子や、店内、商品など各店舗の良さが伝わる写真になった。

対談にご協力いただいた３店舗の方々には、お忙しい中、１５～３０分程度のインタビューを受けてくださった。マップにはインタビュー時のままの口調で掲載しているので、それぞれの店員さんの雰囲気が伝わるものになっている。また、対談をしない店の方々にも、簡単なインタビューをさせていただいた。インタビューの最後に、マップ読者の方への一言をいただいており、マップに掲載している（図７）。

そして、ページレイアウト作成に協力いただいたのが、愛媛大学の志田尚人さんである。志田さんとは、何度も話し合いを重ねて、私たちが作成したいマップイメージの具体化にご協力いただいた。また、松山駅周辺の地図を描いていただき、写真の加工や統一感を出すための方法など､たくさんのご助言もいただいた。

この他にもたくさんの方々からのご指摘をいただき修正・改善を重ね、『たべまっぷ』の内容やページデザインについて決定することができた（表１）。

表１．作成したマップについて

タイトル	『たべまっぷ』 ～女子大生がおすすめするお店 16 選～
ページ数	16 ページ全カラー
サイズ	A5
内容	・はじめに（マップ作成に至った経緯） ・JR 松山駅周辺地図 ・店舗紹介　対談あり３店舗 　　対談なし１３店舗 ・おわりに（読者や協力者への謝辞）

④印刷と配布

原稿の完成後は、愛媛大学社会連携推進機構の方と相談して冊子の発行部数や紙質の決定を行い、『たべまっぷ』は全部で 700 部を発行した。配布場所は、JR 松山駅、愛媛大学、松山大学、松山市まちなか子育て･市民交流センター「てくるん」、松山駅周辺ホテル、松山アーバンデザインセンターである。各大学には、私たちがターゲットとしている若者が多く、手に取ってもらいやすいと考えた。また、普段市街地によく訪れる方々が『たべまっぷ』をきっかけに松山駅周辺に足を運んで欲しいという思いで、松

山市まちなか子育て・市民交流センター「てくるん」に置いてもらうことにした。そして、ホテルに駅周辺のマップはあるものの、データが古いとお話を伺っていた松山駅周辺ホテルにも置かせていただくことにした。また、ご協力いただいた各店舗にも配布した。

4．活動の振り返り

まず、松山駅周辺の現状を把握するために松山駅の関係者の方々からお話を伺う上で、予め私たちが聞きたい情報を質問事項として文書にまとめ、事前に送付した。そうすることでスムーズにインタビューを進めることができ、事前準備の重要性、先方への配慮について学んだ。

また、土地利用勉強会へ参加した際、行政・住民・企業など様々な立場からの意見を頂いた。さらに、松山駅利用者からのアンケートを取ることで、実際の利用者のニーズを把握することができた。このことから私たちの意見だけでなく、地域に関わる様々な視点・角度からの声を聞くことでより充実した情報ツールの作成に繋がったと考える。その他にも掲載させて頂いた店舗で対談・取材を行った際に、お話を進める中でオーナーさんの料理・商品に対する熱い想いや、その方のバックグラウンド、また、松山駅付近でお店をしているその地域への想いを伺うことができ、人情深い、暖かい方々と出会い、私達自身も改めて魅力的な街だと感じた。

活動を通しての反省点としては、スケジュール調整がうまくいかず、店舗の方にご迷惑をおかけしてしまったことや、グループ内での話し合いがまとまっていないまま協力者へ話を持ち出してしまったことで、協力者の方々にご迷惑をおかけしてしまったことなどがあった。これらを通して、グループ外へ連絡をする前にグループ内できちんと話をまとめ、共有することが重要であることを学んだ。

ご協力いただいた方々

窪仁志さま・武田輝大さま（JR 四国旅客鉄道株式会社愛媛企画部部長・副長）／加地俊介さま（松山市役所都市整備部松山駅周辺整備課まちづくり担当）／泉正紀さま（ホテルニューカジワラ）／ utaco drip さま／ハイジさま／アントステラさま／ボラーチョさま／俺のギョーザさま／ Annette さま／カトルセゾン菓子夢さま／ピクニックカフェさま／ La Branche さま／ bou langerie pouce de chef さま／ NAVY BAGELS さま／カフェフィール青山さま／喫茶食堂 ミカエルさま／おうちごはん てんさいとうさま／ぱんやさん Rin さま／自然採食 和 café 和温さま／ RICO SWEETS & SUPPLY CO さま／コピー愛媛さま／志田尚人さま（愛媛大学）／鈴木裕之さま・松田萌さま・藤田玲奈さま（撮影協力）／高市紗也香さま（イラスト）／ UDCM スタッフのみなさま／松山大学さま／愛媛大学さま／松山市まちなか子育て・市民交流センター「てくるん」さま

Appendix

活動スケジュール

5 月 31 日	アーバンデザインスクールでグループ結成
6 月中旬～7 月中旬	マップの研究
8 月上旬～9 月上旬	松山駅周辺まちあるき
9 月 14 日	松山駅でアンケート調査の実施
9 月 19 日	ヒアリング調査（JR 四国さま・ホテルニューカジワラさま） 土地利用勉強会に参加

9 月 28 日	アンケート結果の集計
10 月上旬〜11 月上旬	マップのターゲット、載せる情報の決定
11 月上旬〜12 月上旬	マップに掲載する各店舗へ取材
12 月 8 日	アーバンデザインスクール最終報告会
12 月中旬〜1 月中旬	マップのデザインや内容などの確認①
1 月 中 旬〜2 月上旬	各店舗へ内容の最終確認
1 月 16 日	土地利用勉強会最終報告会
1 月 27 日	土地利用勉強会総括フォーラム
2 月上旬	変更点の修正からマップのデザインや内容などの確認②
2 月 12 日	印刷会社へ印刷のデータを送信
2 月 15 日	マップを置いてもらいたい場所に交渉
2 月 25	『たべまっぷ』発行

メディア掲載

松山市ホームページ

読売新聞／愛媛新聞

報道資料

アーバンデザインスクール生が企画・制作したJR松山駅西辺地区の紹介冊子『たべまっぷ』を初発行します

更新日：2019年2月19日

発表内容

目的

松山市では、公・民・学が連携してまちづくりに関心の高い組織として松山アーバンデザインセンターを設置し、中心市街地の空間づくりや賑わい再生するほか、まちづくりの担い手を育成しています。

松山アーバンデザインセンターでは市民の皆さんが、まちづくりを実践的に学ぶプログラム「アーバンデザインスクール」を毎年開講しており、今年度は4期生となる大学生や社会人18名ほどがグループに分かれて、さらによいまちづくりのために企画を進めてきました。

その1つでJR松山駅西辺地区で活動しているグループ！エキカツ！」が、企画から制作まで手掛けたJR松山駅西辺地区を紹介する情報冊子『たべまっぷ』を初めて発行します。

グループ「エキカツ！」は、愛媛大学と松山大学の女子大学生メンバーで、JR松山駅の利用者のほか、普段JR松山駅西辺地区を訪れない人たちに、おすすめスポットを情報発信することで、足を運ぶきっかけにしてもらいたいという思いで活動しています。

情報冊子『たべまっぷ』は、JR松山駅から徒歩圏内のエリアにある、おすすめの店などをメンバー独自の視点で厳選し紹介しています。JR松山駅西辺地区の魅力が詰まった1冊です。

発行日

平成31年2月25日　（月曜日）

たべまっぷ

配布場所

松山アーバンデザインセンター、愛媛大学、松山大学、JR松山駅、松山市まちなか子育て　市民文流センター　「てくるん」　など

規格

A5版、36ページ、全ページカラー

発行部数

700部

問い合わせ先

松山アーバンデザインセンター

メール｜udc.matsuyama@gmail.com

まつやまアートプロジェクト

まつやまアートプロジェクト

津梅静香（松山大学３回生）　森 太一（愛媛銀行）
田中志歩（愛媛大学２回生）　入義秀子
森 菜就（愛媛大学２回生）

1. 企画の背景

私たちのグループは、食に関心がある人と、芸術に関心がある人が集まっており、食とアートを掛け合わせたイベントがあまり見受けられないことから食とアートをテーマとしたイベントを行うことにした。そこで、食とアートを組み合わせた活動事例を調べていく中で Soup Stock Tokyo さんの事例が面白いと思った。例えば、フェルメールの“牛乳を注ぐ女のスープ”というように、有名な絵画からインスピレーションを得たアートスープを製造していた。食の面に関しては、スープは飲みやすいので気軽にまちの人に楽しんでもらえ、アート面に関しては、松山は俳句のまちとして有名なので俳句に着目した。俳句は、松山にゆかりがあって、最も認知度が高いと思われる正岡子規の俳句を取り上げることにした。松山にある正岡子規の句碑から４つの俳句をピックアップし、私たちの感性で、そのイメージに合うスープをそれぞれ作ることにした。

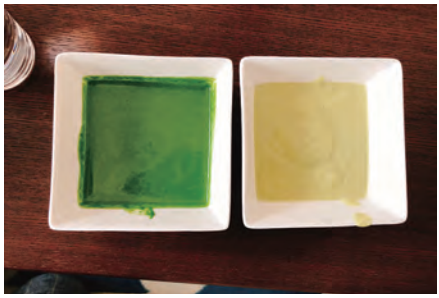
2. 俳句スープに至るまでの経緯

俳句とスープを組み合わせたイベントに決定するまでには、多くのアイデアが出された。例えば、おにぎりを皆で作るワークショップや、絵本や小説を読んでもらってから俳句をつくるイベントや、見た目で芸術を再現しやすい和菓子をつくるイベントなど。しかし、大勢が調理できる広い場所の確保が難しかったり、材料費がかかり過ぎたりしたため、合意には至らなかった。そこで、絵画からイメージされるスープが提供されている事例を知り、スープであれば予算内で自分たちが用意できる上に、参加者も負担なく楽しめるのではないかと考えた。この事例と同じように、ある絵画を見てもらいながら私たちが提供するスープを飲んでもらうことも考えた。しかし、松山にゆかりのある絵画があまり思い浮かばなかったことや、参加者が自身の感性を活かすことができないのではないかと考えた。そこで、松山は俳句のまちであるので、絵画ではなく俳句を取り扱うことにした。当初は、特に知名度の高い正岡子規や夏目漱石の俳句を使うことを予定していたが、スープを４種類提供するとなると、松山にある句碑から全て選ぶのが良いのではという話になり、句碑の多い正岡子規の句を取り上げることになった。

3. 目的

正岡子規の俳句とスープを組み合わせることで、俳句に親しめる機会と意見・感性を共有できる場を提供することを目的とした。

俳句スープの説明の黒板

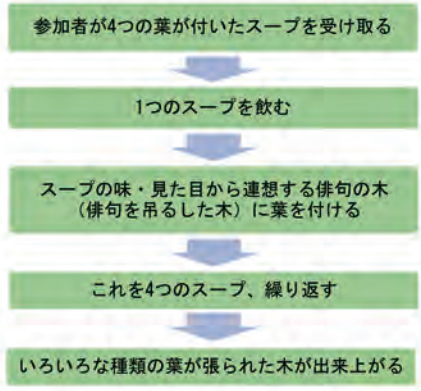


俳句スープ試作品

4. 概要

企画名	俳句スープ
開催日時	2018 年 11 月 18 日 (11：00 ～ 17：00)
場所	みんなのひろば
参加人数	約 80~90 人
準備物	ポールハンガー、竹ひご、紙粘土、掛け軸、半紙、スープ、鍋、紙コップ、ゴミ袋、和紙、IH、お玉、クーラーボックス、雑巾、新聞紙、トレイ

松山に句碑がある正岡子規の俳句から４つをピックアップした。「春や昔十五万石の城下かな」、「松山や秋より高き天守閣」、「国なまり故郷千里の風薫る」、「夏草やベースボールの人遠し」。それぞれ、JR 松山駅、松山城、番町小学校、平和通りに句碑がある。私たちは、これらの俳句からどんなスープがイメージできるかを考えた。そこで、色合いの美しさや季節、美味しさなどを考えて作ることになったのが「枝豆のポタージュ」、「かぼちゃのポタージュ」、「トウモロコシのポタージュ」、「ほうれん草のポタージュ」である。私たちのイメージによって、それぞれどの俳句にどのスープが合うかは決めていた。しかし、どの俳句がどのスープと合うかは、人それぞれの感じ方によって違うと思うので、実際にまちの人に飲んでもらって決めてもらうことにした。これらの４つのスープを小さな紙コップに入れて無料でまちの人に提供し、どのスープからどの俳句が想起されるかを投票してもらった。投票方法は、４本の木（俳句が書かれた掛け軸がかけられている）の枝に、色の異なる４種類の紙の葉を付けてもらった。



5. イベント前日から当日にかけての準備

イベント前日には、スープと俳句の木の２つの準備が必要だった。俳句の木は、実際のポールハンガー以外の部品も使用しているので組み立てが大変だった。木の枝となる木材に穴を開けてネジを埋め込んだり、さらに細い枝の代わりとなる竹ひごを取り付けたりした。竹ひごは、万が一目に入ると危険なので、当日の朝、先を紙粘土で覆った。スープは、当日の朝に温めながら牛乳で薄めるだけで完成

するようにペーストを作っておいた。

当日の朝は、鍋やスープの素などを持ってアーバンデザインセンターへ向かい、まずは俳句の木のセッティングをした。みんなのひろばでスープがすぐに提供できるように、屋台も貸してもらったので屋台の設置も行った。スープは、アーバンデザインセンターの一角を使わせてもらって、IH で温めながら用意した。

6. イベント当日

イベント開催日を 2018 年 11 月 18 日（日）にしたのは、アーバンデザインセンターのクロージングイベントの日であったため、人が多く集まるのでその日に合わせた。そこで 4 つのスープをトレイに乗せ、俳句とスープの種類が書かれた黒板を持って、みんなのひろばにいる人たちに声をかけ、スープを飲んで投票してもらった。俳句がまだわからない小さな子どももスープを飲んでイメージで俳句を選んでくれたり、友達どうしでクレープを食べに来ていた学生はスープを飲んで、どの俳句に当てはまるのかを話し合ったりしながら投票してくれた。参加者の中には、正岡子規の句だと全く分からない人もいれば、4 つの俳句が全て正岡子規の句だと知っている上に、句碑がどこにあるのかを知っている人もいた。また、季語が何であるかを話し合っている人たちもいた。また、参加はしていなくても、道行く人が足を止めてくれる場面も見られた。このイベントの目的は、俳句に親しめる機会と意見・感性を共有できる場を提供することであったので、私たちの思いが共有できたと思う。4 本の木の葉の数は次第に増えていき、違う色の葉が混在していているため、人それぞれで選んだ俳句が違うことがよくわかった。当初は 100 杯用意してその 8 割を飲んでもらうのが目標であった。当日はスープを 130 杯分用意し、6~7 割の約 80~90 杯飲んでもらうことができた。

【投票結果】

オレンジの葉…かぼちゃのポタージュ

黄色の葉…トウモロコシのポタージュ

緑の葉…ほうれん草のポタージュ

黄緑の葉…枝豆のポタージュ

「松山や秋より高き天守閣」

オレンジ 31 枚、黄色 4 枚、緑 3 枚、黄緑 3 枚

「国なまり故郷千里の風薫る」

黄色 15 枚、オレンジ 6 枚、黄緑 9 枚、緑 2 枚

「夏草やベースボールの人遠し」

緑 20 枚、黄緑 13 枚、黄色 5 枚、オレンジ 1 枚

「春や昔十五万石の城下かな」

黄緑 16 枚、黄色 13 枚、オレンジ 9 枚、緑 7 枚

【考察】

カボチャのポタージュは、カボチャの旬が秋なので「松山や秋より高き天守閣」に投票した人が圧倒的に多い。ほうれん草のポタージュは、濃い緑色をしていたので、「夏草やベースボールの人遠し」に投票した人が多かった。トウモロコシのポタージュは、比較的票が割れたが、1 番多かったのは「国なまり故郷千里の風薫る」であった。これは、トウモロコシが故郷のイメージと結びついたのではないかと思う。枝豆のポタージュも票が割れたが、1 番多かったのは「春や昔十五万石の城下かな」であった。枝豆の旬が夏であるため、「夏草やベースボールの人遠し」に投票する人も多数見られた。

7. 成果について

2 人以上で来ていた人たちが、どのスープからどの俳句を連想したかの理由

を紹介し合っている様子が見られたことが良かった。小学生やそれよりも年少の子どもたちは、俳句が理解できないなりにも参加を楽しんでもらえたのではないかと思う。改善点は、鍋の運搬や木の設置など、当日の朝に準備することが多く、開始時間が遅れてしまったこと。俳句スープの概要を理解してもらうのが難しい時があったこと（正岡子規の俳句を全く知らない人にとっては、いきなり4つの俳句を見せられると情報量が多かったのかもしれない）。参加者の声を録音するために、4本の木の下にそれぞれボイスレコーダーを設置していたのだが、声が遠かったり周りが賑やかであったりしたためうまく音声を録音することができなかったこと。俳句スープの内容を説明する人、参加者に意見を聞く人、木に葉を貼る人など、当日のメンバーが4人だったのに対してやることが多く、人手が足りなかったこと。

スープを用意している様子

俳句の楽しみ方には、句会や読書会などがあるが、今回私たちは、「食」と組み合わせて俳句を楽しむという新しい方法を実践できたのではないかと思う。そうすることで､過去の作品である俳句を、現代の私たちがスープを飲んで「美味しい」と感じたり、季節感を味わったりすることで新鮮さを感じ、俳句をより身近に感じてもらえたのではないか。

みんなのひろばの様子

俳句の木に葉が付けられている様子

ご協力いただいた方々

UDCM スタッフのみなさま

Appendix

活動スケジュール

5月31日	グループ結成
8月9日	中間報告会
8月11日	今後の流れの決定
8月28日	先行事例の共有と内容決め
9月4日	内容決めと発表資料作成
9月5日	中間発表
10月9日	中間発表
10月22日	試作
10月24日	中間発表と情報共有
11月7日	メンバーの役割分担決め
11月9日～17日	準備物の用意と確認
11月17日	俳句の木、葉、黒板の準備
11月18日	イベント当日

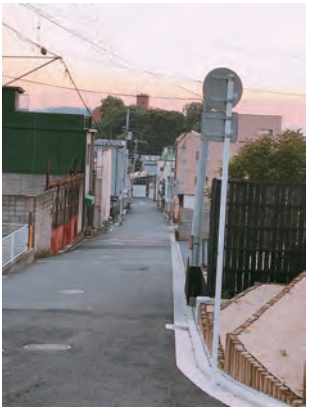
夕焼けベンチ in 宝厳寺　イイトコ道後♨

上市 輝（松山大学２回生）　元木葉月（松山大学２回生）
河野真子（松山大学２回生）檜垣明里（愛媛大学１回生）

１．夕焼けベンチ in 宝厳寺の背景と目的

道後は愛媛県の有名な観光地であり、道後温泉本館や道後商店街は人通りが多く観光客などでにぎわっている。しかし、そこから一本外れた通りにはかつて道後の色町として栄えていた「上人坂」や、一遍上人の生誕地である「宝厳寺」、湯の大地蔵尊が存在する「円満寺」など歴史深い場所や情緒あふれる雰囲気を味わえる場所が点在するにもかかわらず、人通りが少なくあまり知られていないという現状を打開しようと考えた。そこで私たちは、道後の隠れた魅力を発信するべく、「上人坂」・「宝厳寺」エリアに着目した。そして、私たちはこれらの場所の存在を広め、より多くの人に足を運んでもらうきっかけづくりを行うため、「夕焼けベンチ in 宝厳寺」を企画し、①夕焼けベンチと②知られざる裏道後ツアーの２つの取り組みを実施した。まず「夕焼けベンチ」を企画した目的は、宝厳寺は知る人ぞ知る夕焼けスポットであり、宝厳寺の落ち着いた情緒あふれる空間を生かせると思ったためだ。また、若者にとっては「インスタ映えスポット」になり得るのではないかと考えた。「知られざる裏道後ツアー」を企画した目的は、松ヶ枝町遊郭やネオン坂時代の上人坂の知られざる歴史や成り立ちを知ってもらうことで、今の上人坂がある背景を理解してもらうとともに当時にタイムスリップした感覚を味わってもらうためである。これら２つの取り組みを通して、私たちは上人坂・宝厳寺の魅力を観光客・地元の方を含め、多くの方に知ってもらおうと考えた。

宝厳寺山門の様子


上人坂と夕焼けの様子

2．準備・関係者の方々との調整

夕焼けベンチin宝厳寺を開催するにあたって、まず、宝厳寺の住職さんから宝厳寺境内の使用許可をいただいた。そして、山澤商店の山澤さんからベンチの代用になるビールケースと段ボールを借用した。事前に、UDCM ディレクターである尾崎先生の助言のもとベンチの寸法確認、夕焼けが綺麗に見える視点調査を行った。１つ１つのビールケース・雲形のスツールの配置を念入りに検討し、各参加者が夕焼けをベストポジションで見られるように配慮した。

広報では、SNS(LINE,Twitter,Instagram,Facebook) を活用してイベント内容の発信を行った。また、UDCM スタッフの志田さんにポスターを作成していただき、大学・道後商店街等にポスターを掲示させていただいた。さらに、携帯のタイムラプス機能を用いて、宝厳寺から見える夕焼けが沈んでいく様子を撮影し Instagram で発信した。

ポスター・チラシの表面

ポスター・チラシの裏面

3．企画内容と工夫した点

11 月の金曜日・土曜日の 6 日間にわたって道後の宝厳寺で「夕焼けベンチin宝厳寺」を開催し、延べ 137 人の方に参加していただいた。イベントの内容は主に 2 つあり、16 時 30 分からはベンチで夕焼け鑑賞とお茶と道後の銘菓でおもてなしを行った。17 時 30 分からは知られざる裏道後ツアーを行った。

①夕焼けベンチ

まず、山澤商店さんのビールケースと段ボール、宝厳寺の雰囲気に合わせて選んだ黄色の布で手作りをしたベンチに座っていただき、宝厳寺の境内から見える綺麗な夕焼けを見ていただいた。そして、お茶と道後の銘菓である坊ちゃん団子 3 種類を先着 15 名に無料提供し、食べ比べを行っていただいた。坊っちゃん団子のお店は、白鷺堂、巴堂、つぼやの 3 店舗で、食べ終わってからは手作りのお団子ボードに団子の感想や、どのお団子が 1 番美味しかったかシールを貼ってもらった。どのお団子も好評で、参加者

1人1人の食べ比べの感想もそれぞれのお団子の特徴を掴んでいた。

ベンチに座り坊ちゃん団子の食べ比べを行う様子

また、#イイトコ道後をつけてＳＮＳに投稿していただいた方にはチェキのプレゼントも行った。チェキは記念品としてのお持ち帰り用とコルクボードに貼る用の2枚を撮るようにした。イベント時は宝厳寺全体が温かい雰囲気に包まれ、ゆったりとした時間が流れていくようだった。

②知られざる裏道後ツアー

宝厳寺・上人坂周辺の裏道後について学ぶミニツアーを行った。ルートは宝厳寺からスタートし、上人坂を下り、円満寺へ行き、道後温泉本館前までご案内するというルートである。参加者に少しでも楽しんでもらいたいという想いでツアーの中で簡単な3択クイズを行い、クイズに正解した方にはアメちゃんをプレゼントした。また、昔の上人坂にタイムスリップしたような気分を味わっていただくために、参加者には道後温泉旅館組合様からお借りした提灯を持って説明を聞いていただいた。残したい日本の音風景100選の1つである道後温泉振鷺閣の刻太鼓の音と共にツアーは終了し、最後に道後温泉全体が見渡せる特別な場所から記念撮影を行った。

夕焼けを見ている様子

知られざる裏道後ツアーでのクイズ出題の様子

チェキと感想ボード

参加者が提灯をもって説明を聞いている様子

また、知られざる裏道後ツアー参加者には、記念として私たち自作の明治時代の上人坂と現在の上人坂を比較した資料を配布した。私たちが一生懸命、県立図書館などで調べた内容を分かりやすい言葉に直し、伝えたいこと、忘れてはいけないことをツアー内で説明することができた。

実施した企画概要

企画名	夕焼けベンチ in 宝厳寺
実施日時	2018 年 11 月 3 日、6 日、9 日、16 日、17 日、23 日、24 日 16：30 ～ 17：30
実施場所	宝厳寺
参加者数	137 人
準備物	ビールケース、布、ダンボル、団子、お茶、ボード、スツール、チラシ（2 種）、ポスター、アンケート　他
企画名	知られざる裏道後ツアー
実施日時	2018 年 11 月 3 日、6 日、9 日、16 日、17 日、23 日、24 日 17：30 ～ 18：00
実施場所	裏道後（宝厳寺、上人坂、円満寺、道後温泉本館）
参加者数	92 人
準備物	提灯（3 個）、フリップ、配布資料、アンケート、バインダー　他

4．改善した点と工夫した点

私たちの夕焼けベンチ in 宝厳寺は、計 6 回と複数回開催したことも特徴の一つである。イベントの回を重ねるごとに改善点や課題が見つかり、その都度改善を行った。

①夕焼けベンチ

夕焼けベンチにおいて特に工夫した点は、UDCM よりお借りした LED ライトと灯篭を用いて日没後には、普段の宝厳寺とは雰囲気の異なる光の空間を演出したことである。お寺とイルミネーションとはなかなか見慣れないかもしれないが、宝厳寺の落ち着いた雰囲気と調和した幻想的な空間が演出でき、参加者にも喜んでいただけたと感じる。

ライトアップした夜の宝厳寺の様子

また、改善した点としては食べ比べの先着 15 名を超えて来られた方に、紙コップに一言メッセージを入れてあたたかいお茶を提供したことや荷物入れを用意したこと、募金活動を行ったこと、雲のスツールに貼る広告を作成したことなどが挙げられる。紙コップにメッセージを書くということは、食べ比べを出来なかった方にも何か ¨ ホッと ¨ 心のあたたまるおもてなしを出来ないかという私たちの思いから生まれたものである。

②知られざる裏道後ツアー

次に、知られざる裏道後ツアーにおいて工夫した点は、ツアー終了後に明治時代の松ヶ枝町遊郭があった頃の上人坂と現在の上人坂・その周辺を自分たちなりに分析し、比較した資料を参加者の方に配布したことである。これは、アンケートでいただいた「何か手元に残るツアー資料があるとうれしい」という意見をもとに作成したものである。歴史の深い上人坂の移り変わりが、一目見てわかるような資料になっていると思う。

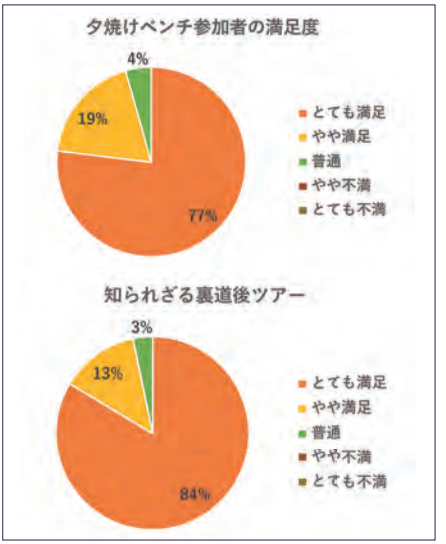
また、改善した点としては。このツアー

に何度来ても楽しめるように毎回少しずつツアー内容を変更したり、フリップを軽量化し負担を減らしたり、上記でも述べたツアー資料の作成を行ったりことが挙げられる。

配布したツアー資料

5．夕焼けベンチ in 宝厳寺での成果と課題

イベント後には、参加者の感想と満足度・改善点などを調査するためにアンケートを行い、92 人の方に答えていただいた。夕焼けベンチの満足度は 5 段階のうちの最上の「とても満足」と回答した方が 76%で、知られざる裏道後ツアーの満足度は同じく「とても満足」と回答した方は 84%という結果になった。またイベントの感想では「道後の新しい顔を知れた気がする」や「ツアーがなかったら宝厳寺も上人坂も来なかったと思うのでこれをきっかけにまた夕日を見に来たい」という言葉をいただいた。



参加者の満足度

これらの感想から私たちの当初の目的であった道後の隠れた魅力を発見し、たくさんの人に知ってもらい、広めることが少しは達成できたのではないかと思う。そして、2 回目、3 回目と訪れてもらうきっかけづくりもできたと感じる。

他にもまちの方々からは「夕焼けをフックにして宝厳寺でイベントを行ったことは、上人坂・宝厳寺に足を運んでもらえ、これからの発展につながる良いきっかけになったと思う」や「夕焼けベンチのイベントを道後商店街の方々に知ってもらえ、宝厳寺の魅力の再発見につながった」などのお言葉をいただいた。

そして、宝厳寺住職長岡陽子様からは、「イベントを通してお寺の存在を知ってもらえるきっかけになった。また、今回大学生の企画ということで若い世代の方にも多く参加してもらい、普段足を運ばない方にとっても歴史や文化に触れるい

い機会になったのではないかと思う」というお言葉をいただいた。

これらを含めイベント全体を通して、上人坂・宝厳寺に足を運んでもらえるきっかけ作りや、まちの方々と今後につながる関係を築くことができたと感じる。また、もともと人通りが少ない場所に集客しようとすることはかなり難易度が高いことや、情報発信を1か月間し続けても、まちやその場所に影響が表れるのには時間がかかることなどが実践してみて分かった。私たちの力だけでは限界があると思うので今後は、道後温泉旅館協同組合だけでなく道後商店街振興組合、道後誇れるまちづくり推進協議会の方々とも上手く連携を取りながら広報を行っていきたい。

6. 今後の展望

今後の展望として夕焼けベンチ in 宝厳寺イベント期間中に来られなかった方からのメールやアンケートよりイベントを継続して欲しいという声があったため、私たちは夕焼けベンチの継続および知られざる裏道後ツアーの継続を検討している。地域の組織の方々や宝厳寺住職様と連携し、宝厳寺や道後でのイベント開催時に夕焼けベンチ in 宝厳寺を行いたいと考えている。知られざる裏道後ツアーは、夕焼けベンチ in 宝厳寺開催時のみ行うことを予定している。

また、3月23日には第7回目の夕焼けベンチ in 宝厳寺の開催も決定した。今後も、道後の隠れた魅力を発信し続けられるよう SNS での情報発信やイベント開催などを継続して行っていきたい。

協力していただいた方々

宝厳寺住職 長岡陽子さま / 山澤商店 山澤満さま / 道後温泉旅館協同組合（観光案内所）さま / 元祖くるまやさんさま / 白鷺堂さま / 巴堂さま / つぼやさま / みかんの木さま / 古泉さま / ひめやさま / 道後マルシェさま / 葵屋さま / 谷本蒲鉾店さま / うぐいすやさま / 道後亭さま / 椿の湯さま / 松山大学 経営企画部社会連携課さま / 学生部学生課さま / アーバンデザインセンターのみなさま

Appendix

活動スケジュール

5月31日	アーバンデザインスクールでイイトコ道後♨結成
6月15日	道後まちあるき
8月20日	宝厳寺住職 長岡さんとのお話 道後まちあるき
8月22日	愛媛県図書館で情報収集
9月22日	旅館組合会長新山さんとのお話
9月27日	夕焼けベンチ in 宝厳寺に決定
10月1日	Twitter/Instagram/LINE @ 開始
10月9日	知られざる裏道後ツアーも同時開催決定
10月11日	宝厳寺住職 長岡さんとのお話
10月15日	Facebook 開始
10月20日	コースの決定 企画書作成
10月25日	第1弾チラシ完成 印刷・配布開始
10月25日	土地利用勉強会総括フォーラム
11月2日	夕焼けベンチ in 宝厳寺 リハーサル
11月3日	第1回夕焼けベンチ in 宝厳寺
11月5日	らくやのぉの襲撃 / らくさぶろうの突撃 出演（南海放送）
11月9日	第2回夕焼けベンチ in 宝厳寺
11月16日	第3回夕焼けベンチ in 宝厳寺
11月17日	第4回夕焼けベンチ in 宝厳寺
11月23日	第5回夕焼けベンチ in 宝厳寺
11月24日	第6回夕焼けベンチ in 宝厳寺
12月8日	最終報告会 in 坂の上の雲ミュージアム
3月23日	第7回夕焼けベンチ in 宝厳寺

メディア掲載

まちラジ（FM 愛媛）/ らくやのぉの逆襲（南海放送）/ ふるさと絶讃バラエティーよ（テレビ愛媛）/ 愛媛新聞（四季録）/ 松山市 HP

松山アーバンデザインスクール 4 期生

Congraturations on your graduation!

有田 隼	チーム井野森隼太郎
泉 夏実	エキカツ！
井上 花梨	チーム井野森隼太郎
入義 秀子	まつやまアートプロジェクト
宇山 舞夢	Washi Sky Project
垣内 みなみ	Washi Sky Project
加藤 志歩	エキカツ！
上市 輝	イイトコ道後♨
國政 智行	街を照らし隊
久保 伶奈	街を照らし隊
河野 真子	イイトコ道後♨
河野 芽	チーム井野森隼太郎
佐藤 萌衣	エキカツ！
高田 凌雅	Washi Sky Project
田中 志歩	まつやまアートプロジェクト
津梅 静香	まつやまアートプロジェクト
野本 聖	街を照らし隊
檜垣 明里	イイトコ道後♨
藤原 優奈	エキカツ！
牧野 未妃	Washi Sky Project
万戸 優希奈	エキカツ！
三澤 連太郎	チーム井野森隼太郎
元木 葉月	イイトコ道後♨
森 太一	まつやまアートプロジェクト
森 菜就	まつやまアートプロジェクト
森実 夏海	チーム井野森隼太郎
矢野 由佳	街を照らし隊
山本 紗乃	エキカツ！

活動風景

2018.5 - 2018.12

アーバンデザインスクール運営委員会より

愛媛大学
社会共創学部教授　松村 暢彦　　担当：まつやまアートプロジェクト

まちが「コトン」と変わる音が聞こえたでしょうか。まちは、新たな建物ができて「ゴトン」と変わるだけではありません。日々の生活の中で、例えば公園で気持ちのいい時間を過ごすことでも「コトン」と変わっていきます。そんな音を一緒に創っていきましょう。

愛媛大学
社会共創学部准教授　羽鳥 剛史　　担当：Washi Sky Project

どのグループも様々な課題に直面しながらも、最後まで粘り強く取り組みましたね。皆さんの活動は松山市のまちづくりに新しい可能性をもたらしましたし、皆さんにとって貴重な経験になったと思います。ぜひ今回の経験を活かして地域社会のためにご活躍下さい！

愛媛大学
社会共創学部准教授　山中 亮　　担当：チーム井野森隼太郎

テーマへの取組みご苦労様でした。実際に行動すると、話し合いだけではわからなかった課題が観えてきて大変なことも多かったのではないかと思います。それを乗り越えて取り組んだ経験は、今後必ず様々な場面で活かされると思います。ご活躍を期待しています。

愛媛大学
社会共創学部助教　片岡 由香　　担当：エキカツ！

４期生のみなさん、おつかれさまでした！ここで初めて出会った仲間と共に自分達で企画したテーマを実現することの難しさや楽しさを身にしみて感じられたのではないかと思います。今回のプロジェクトで学んだことを振り返り、今後も様々な形でまちづくりの現場に関わってください。松山のまちを一緒に良くしていきましょう！

松山大学
経営学部准教授　河内 俊樹　　担当：街を照らし隊

さて､問題です。「まちづくり」に対する自分なりの答えは見つかりましたか？スクールの活動に真剣に取り組んだみなさんであれば、きっとその答えが見つけられたのだと思います。スクールで得られた経験を、ぜひ人生の財産に変換してください。みなさんのご活躍を期待しています！

聖カタリナ大学
人間健康福祉学部助教　齋藤 拓真　　担当：イイトコ道後♨

スクール生のみなさん、お疲れ様でした。エネルギー溢れるみなさんの思いや情熱が形になっていく様子を見ていると、松山の明るい未来が見えたような気がします。是非、これからも「まちづくり」を担う人としてリーダーシップを発揮できるような活躍を期待しています。

松山東雲女子大学
心理子ども学科講師　河原 理

修了おめでとうございます。
今回の経験を、今後も活かしていかれることを期待しています。
大学の勉強なども同じですが、卒業が目標ではありません。
学んだことを卒業後に活用できるかが重要です。Vivere est cogitare.

愛媛大学
アーバンデザイン研究部門講師　尾﨑 信

まちづくりにおいて、考えることと現場に立つことは車の両輪のようなものだと思います。どちらかが欠けると前に進みません。このたび、みなさんはこの両輪を手にしました。これをぜひ回して走り出してほしいと思います。現場がみなさんを待っています。

愛媛大学
アーバンデザイン研究部門助教　四戸 秀和

修了おめでとうございます。そして、お疲れ様でした。色々と大変なことやうまくいかないこともあったと思いますが、「まちづくり」に関わる取り組みをしたことが、きっとこれからの活動に生きてくると思います。みなさんの今後の活躍を期待してます。

URBAN DESIGN SCHOOL MATSUYAMA VOL.4

2019 年 3 月　発行

表紙デザイン …… 森河 恵奈（愛媛大学 2 回生）
冊子編集 …… 志田 尚人（愛媛大学大学院 1 回生）
発行者 …… 松山アーバンデザインセンター